

本誌は、県民の皆様に山梨県子ども読書支援センターのことをより深く知っていただくため、当センターの事業や活動内容について情報発信するものです。

>> 児童青少年サービス講座中級編(第5回)を実施しました。

第5回は、平成26年12月12日(金)に「今日から使える国際子ども図書館—直接児童サービスを中心に—」と題して、国際子ども図書館の田中千穂子氏にご講義いただきました。

まず初めに、国際子ども図書館の基本的な役割をお話しいただきました。「児童書専門図書館」であり国内外の児童書、関連資料を収集・保存して提供していること、「子どもと本のふれあいの場」として直接児童サービスを行っていること、また、「子どもの本のミュージアム」として通常の展示に加え、ホームページ上で「電子展示会」を行っていることなど、詳細に説明いただきました。

次に、児童サービス担当者支援事業として行っているフォーラムやワークショップ、講座の紹介や、調査研究事業の紹介、また、「学校図書館セット貸出」等の学校向けサービスの紹介がありました。

国際子ども図書館で直接サービスを行う意義として、「全国の児童サービス担当者に向けて、実践に裏付けされた児童サービスの情報を発信する」というものがありますが、全国を視野に入れている国立図書館であることを再認識しました。選書では、絵本・文学は担当者を決め、レビュースリップを用いて検討しているそうですが、知識の本は全点を担当者全員が確認しているそうです。イベントについては、年齢別に行っている「子どものためのおはなし会」、「ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会」等をご紹介いただいた後、講師によるおはなし会も実演いただきました。

最後に、平成27年度のリニューアルについてお話いただきました。新たに、児童書研究資料室や中高生のための調べものの部屋ができるそうです。また、書庫も拡充され、35年分の児童書が入るとのお話には多くの受講者が驚いていました。講義の後は、おはなし会に関する質問や悩みに丁寧な回答をいただきました。また、事前に各受講者が作成したテーマ展示リストについてもアドバイスをいただき、大変勉強になったようです。

受講者からは「国際子ども図書館の活動の様子がよくわかったので、今後はホームページを活用したいと思った」「講義全体が具体的で、明日からでも実践できそうな内容でよかった」等の感想が寄せられました。

今回で全5回の講座が終了となり、講義の後に閉講式、および28名に修了証の授与を行いました。



▲講座の様子



▲おはなし会の様子

>> 定例おはなし会を実施しています。

毎日午後2時30分から、よむよむスペースでおはなし会を実施しています。

その内容は、年齢に合わせた絵本の読み聞かせを行っており、0歳から2歳向けのよちよちおはなし会(平日)、3歳から小学生向けのとことこおはなし会(土日、祝日)です。絵本の読み聞かせと、季節のわらべうたで遊びます。

楽しいおはなし会にぜひご家族でご参加ください。

>>子ども読書推進フォーラム「言葉でたのしむ・言葉をたのしむおはなし会『ことば・ことば・ことば』を開催しました。

平成27年1月25日（日）に、毎回好評をいただき今回3度目となる、子ども読書推進フォーラム「言葉でたのしむ・言葉をたのしむおはなし会『ことば・ことば・ことば』」を開催しました。NPO法人山梨子ども図書館の齊藤順子さんと宮崎さなゑさんのお話に、こどもたちは真剣に聞き入ったり、詩、わらべうた、唱えことばなどを一緒に声に出して読みました。二人の息の合った掛け合いに、会場は笑い声と歓声につつまれ、64名の親子連れなどが言葉を存分に楽しみました。



▲朝起きて一番最初にすることは？



▲終了後、展示した本を手取る参加者の様子

当日のプログラムと、おすすめの本リスト、当日の詳しい内容をホームページに掲載しておりますのでそちらもご覧ください。（http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo_shien/post_6.html）

今回使用した本と、配布したおすすめの本リストに載っている本は、会場に展示し紹介しました。終了後は、実際に手に取って見たり、借りていかれる方も多くみられました。参加者からは、「子どもは、一緒にことばを出し、とても楽しんでいました。」「子どもとゆっくり本を楽しもうと思います。」などの感想をいただきました。お話やことばのリズムのおもしろさを体感し、この機会にご自宅でも家族一緒に本に親しみ楽しんでいただけたらと思います。



【プログラム内容の紹介】



…子どもたちの笑顔が多く見られた場面をご紹介します…

★「今日は早く起きた？すっきり目が覚めた？この本は、みんなの一日を詩にした本です。では読んでみましょう。」との呼びかけに、『めのみどあけろ』（谷川俊太郎／ぶん、長新太／え、福音館書店、1984年）を講師の斎藤さんと宮崎さんの後に続き、絵を見ながら繰り返し声に出して読みました。

★『まどさんとさかたさんのことばあそび』（まどみちお／文、阪田寛夫／文、小峰書店、1992年）より、「きまりことば」を講師のお二人が息の合った掛け合いで読みました。

「ぼかぼか」や「そよそよ」「ぎらぎら」などたくさんのおノマトペが出てきました。そこで子どもたちに、音や様子を表す言葉であるおノマトペで知っているものをあげてもらいました。「雪は？」「ちらちら！」「ちょうちょは？」「ひらひら！」「雨は？」「ざーざ！」、それに「しとしと！」「ぼつぼつ！」などたくさん言葉が飛び出しました。

▲「ぺったらぺったん」神棚へお供えします

トペが出てきました。そこで子どもたちに、音や様子を表す言葉であるおノマトペで知っているものをあげてもらいました。「雪は？」「ちらちら！」「ちょうちょは？」「ひらひら！」「雨は？」「ざーざ！」、それに「しとしと！」「ぼつぼつ！」などたくさん言葉が飛び出しました。

★お手玉を使った手遊び「ぺったらぺったん」では、皆で輪の形になって座り、お手玉をお餅に見立てて、餅つきをします。できたお餅は自分の頭上の神棚にお供えし、「今年もお米がたくさんとれますように、お願いします。」と願い事を唱え、頭上のお餅を自分の手の上にポトンと落として、キャッチする遊びです。子どもたちは、手の上にお餅を受けとめるのがおもしろいようで、大変盛り上がりました。